

宮城厚生協会 2009 年度

法 人 事 業 計 画

2009年3月14日 宮城厚生協会第9回理事会

厚生協会だより

2009年3月21日
第 294 号

発 行
(財)宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：長 澤 清 光



挨拶する水戸部理事長

宮城厚生協会全体職責者会議（アエル多目的ホール：2月24日）

はじめに

○2009年度は宮城厚生協会の将来を左右する判断が求められる年であり、今後4～5年間を見通した政策、課題の整理、具体化等を進めるための大事な一年目になる。具体的には、公益法人制度改定（2008年12月1日から民法34条による財団法人ではなく、5年間の経過措置期間限定の特例民法法人になった）への対応であり、宮城厚生協会の法人形態を公益認定申請に向けた検討判断が求められる。

○経営を取り巻く環境は、「医療制度改革」及び2008年度診療報酬改定で、宮城厚生協会の経営悪化は深刻化しつつあり、今後一定期間厳しさが続く。同時に社会保障抑制路線が、高齢者や母子家庭、生活に困窮した中小業者、若者など社会保障の支えを最も必要としている国民に深刻な被害を及ぼしている。

で、投機マネーによる原燃料・飼料・食料の急騰が直撃、大企業の利益優先の構造は非正規労働者の大量解雇を生み出し、多くの人が放り出されている。中小企業も資金繰りと下請けいじめに苦しみ、経営苦に追い付いている。追い打ちをかけるように、政府は社会保障の財源として「消費税率引上げを2011年度より段階的に実施、2015年度までに10%程度に引上げる」計画を示している。

○出口の見えない不況は今後さらに深刻さを増していく。金融機関は貸し付け条件の変更、貸し渋り・貸しはがしなど保証融資の拒否も起こっており、外部環境の急激な変化は宮城厚生協会にとっても何が起きても不思議でない極めてリスクの高い状況にある。

○宮城厚生協会の「経営を守ることは、それ自体がたまたかい」、厳しい時代であればなおのこと、民主的医療運動や民主経営の一翼を担い、「国民のたたかひの前進なしには民医連運動の発

「展も保障されない」という視点で民医連運動と事業経営を守ることに、医療構造の再構築と支える経営構造の改善が急務である。

○今年は総選挙の年、友の会

1、2009年度の事業計画を進める基本視点と重点課題

1、宮城厚生協会の2009年度事業計画を進める基本視点

○公益認定申請に耐えうる「医療経営構造」「財務構造」を計画的に作り上げるために抜本的見直しに取り組む。

○引き続き、民医連方針に基づき地域連携を軸に各病院・事業所での医療活動を旺盛にすすめ、良質で安心・信頼のできる医療サービスを提供するために、医療安全の確保と医療機能の向上を図り、安全・安心、質の高い医療・介護を展開、コスト意識(人・物・金・時間)を貫き、安定黒字になる経営構造を構築していく。

や地域住民のみなさんと共に、安心して必要な医療・介護、社会保障が受けられる国づくりを目指して、政治の身を転換する運動を広範に進める。

○職員を先頭に、友の会組織を飛躍的に拡大強化し、いのちの平等、憲法9条・25条を高く掲げ、友の会と一体となった地域づくり・民医連運動を進める。

2、2009年度事業の重点課題

○公益認定申請に向け検討組織を立ち上げ具体化する。債務超過からの脱却(協会基金11億円の固定負債への変更表示で5億円の債務超過)、無料低額診療の坂総合病院での実践、全事業所での実践検討。宮城厚生協会の支払い能力の限界にきている賃金・退職金制度の見直し。

○坂総合病院の18床増床に伴

う看護師配置と稼働、入院時医学管理加算取得のための環境整備、原価計算システム導入による本格的な管理システムの稼働。古川民主病院の2010年度有床診療所+介護療養型老健施設への転換成功による経営改善、中新田民主医院の一体管理による経営改善実施の取り組み。

○長町病院への内科指導医配置による病床稼働の保障、泉病院の病床構造転換に伴う稼働目標達成による経営改善と将来構想の検討開始。

○歯科事業部制を最大限生かした医療活動と独立採算を

II、事業計画、重点課題を進める上での必要な課題

1、人権を守り、安全・安心・信頼の医療と質の管理、医療整備の点検と再構築

○地域に目を向け患者になれない病人への対策(無料・低額診療の実施検討)や医療相談活動等、人権・受療

基本に、経営構造転換による業務・賃金の見直し含む黒字化。各診療所での患者増対策と健診事業、介護事業の拡大等での黒字化による経営改善。

○2009年度介護報酬改定への対応、介護の質の向上と安全性の確保、今後の介護事業を担うマンパワー確保と事業拡大。介護保険法に基づく法遵守と必要な統廃合・事業整備。

○今ある施設の効果的稼働で事業収益140億円以上の確保、当期利益〇%、〇億円を確保し超過債務の縮小に取り組む。

権を守る活動を重視し、医療の質、安全・安心・信頼の医療・介護の取り組みを強化する。

○医療整備チェックリスト作成と点検、マニュアルの継続の見直し整備と遵守、医療倫理、終末期医療、高齢

者医療に対する取り組みを強化する。

2、医師確保と配置、看護師確保は最重要課題

○各病院の病床稼働の力を握る看護師確保を最重要課題として取り組む。看護師確保対策専任を3名体制にして強化を図る。

○患者にとって安全・安心の医療の提供実現、医師・看護師の確保による労働軽減と改善の前進、経営改善の前進の三つの目標実現のため、医師・看護師確保と定着強化を本格的に位置付け



ナースウェーブ
(仙台フォーラス前)



認定看護師による地域開放型研修会(坂病院)

る。

○長町病院への内科指導医の優先的配置、坂総合病院での安定した看護配置、泉病院及び長町病院の予算目標に応じた既存病床稼働のために看護師配置を検討する。泉病院へのリハビリ科医師配置の継続検討。

3、介護事業の重視

○ヘルパーステーション等での職場作りと集団化、必要な事業の統廃合。

○引き続き訪問看護のタミナルケアや施設との医療連携強化を行う。

○内部監査の引き続く徹底。

4、特定健診・保健予防活動の拡大

○初年度の「特定健診・指導事業」を各病院・事業所で総括し、各病院・事業所毎の位置付けを明確にし、強化する。受診者・共同組織において、制度上の不備や他の健診事業の後退を把握し、改善運動に共に取り組む。

○アスベスト健診、友の会健診を重視し、各事業所・各科の専門性を生かした健診・保健予防活動を重視する。

○運動療法センターの役割を強化する。

5、急がれる民医連を担う職員育成、後継者養成

○全職員への育成面接と職場目標に基づく個人目標の確立、実践を具体的にすすめる、職員の努力が活きる業務運営に改善・努力を行う。

○専門資格取得奨励制度の確立、職場業務改善活動の促進に向け交流会を開催す

る。

○県連事務幹部養成学校への援助、修了者の面接と必要な配慮。職員の最低年1回の研修への参加保障。

6、内部統制部の行動計画に基づく役割発揮

○現金管理に関する業務を中心に、不祥事防止に向け現状の把握、整備状況検証の取り組み。各病院・事業所での現金取り扱い部署の訪問点検。

○不適正な場合の改善提起、不正防止に有効なマニュアル整備、監事団と協力した不正再発防止に有効なシステム整備を進める。

7、友の会の拡大強化と法人組織部の確立

○共同組織の2つの位置付け重視、①民医連運動の発展にとって不可欠の構成要素、②医療・福祉の住民運動組織であり「まちづくり」運動の主体者。

○貧困と格差、生活難の中で「安心して住み続けられるまちづくり」めざした健康まちづくり運動。助け合

い、ボランティア活動、相談活動等を通じた、医療・福祉(国保問題、後期高齢者医療制度、介護保険等)の自治体への地域住民運動としての役割発揮。組織構成員が主人公の活動へ発展していく上で拡大強化が必

要。

○地域型友の会への発展、各友の会職員専任担当者の成長と、一緒に支え、政策的に組織の発展強化を保障していく法人組織部の確立の検討。

Ⅲ、事業計画の推進に向けた政策的課題、費用検討課題

1、システムの対応

○基幹システムとイントラネットの情報システムの整備・改善。

○電子カルテを使用した法人内各病院・事業所との連携や地域連携のネットワーク構築の検討・具体化。

○不正介入を許さないシステムの改善、窓口現金管理システムの導入、牽制システムの具体化。

○人事・給与、共済システムの導入検討。

2、事業計画を推進する上で費用検討課題

○安心・安全に関わる医療の質の向上と医療整備推進、業務改善や職員育成・研修

費用についての検討。

○情報関係システムの見直しに関わる原資の検討、人事・給与システム導入等、事業計画を推進する上で必要な費用について予算実行の中で検討し具体化していく。

○各病院・事業所の政策投資枠は3億〜3億5千万円とする。基金・協会債で1億円賄う。





「のびのび長町」 オープン!

長町病院附属クリニック

健康管理室 保健師 斉藤 裕子

2009年2月16日から、メディカルフィットネス「のびのび ながまち」が長町病院附属クリニック2階にプレOPENし、3月2日の本格OPENまでの期間は無料体験会を実施しました。

無料体験会には、常時6～8名が参加され、ストレッチや有酸素運動マシン、筋力トレーニングマシンなどを体験していただきました(*写真参照)。

「運動って楽しいね」「病院内だから安心して運動できるね」「やせれば病気がよくなるって先生から言われて…みんなと一緒に運動できるなら続けられそう」「運動指導士のプログラムのもと無理なく運動できるのいいね」など、様々な反応をいただいております。また仙台市委託の「元気応援教室」の修了生にもご利用いただいております。



運動の楽しさや喜び伝え 健康維持を目標に

当施設では、病院内の施設という特徴をいかして管理栄養士や保健師による健康講話を交えながらのストレッチ教室などの開催、また、腰痛予防や肩こり予防などの目的別集団教室も今後予定しております。

広く地域の方々に運動の楽しさや喜びを伝え運動の習慣が付き健康を維持できる、そんな施設を目標にスタッフ一同努力してまいります。職員の皆さんには、友の会会員・患者様などに広くお声がけしていただければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。





平間さん(前列右から4番目)

「勤続40年を振り返って」

困難な時こそ仲間を信頼して

宮城厚生協会介護事業部長 平間 止

綾小路キミマロではありませんが、せんが「あれから40年…」、1・2年の月日の経つのが最近特に早く感じるようになって、改めて自分の歳にびっくりしている今日この頃です。

想い起こせば、楽しかった事、悲しかった事、辛かった事などいろいろあったけど、なにはともあれ、健康でここまで働き続けられたのも、共に働く仲間たちや地域の人たち、そして家族に支えられ、励まされたおかげである事を改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

これまでの自分のプロフィールを交えて一言感謝の気持ちを述べたいと思います。

わたしの原点

あの当時、日本の高度経済成長が続く中で疾病構造も多

様化し、厚生協会として医療内容の質的強化が求められており、医師確保と看護師確保そして研修制度の充実や技術構築が課題となっていました。また一方「インターン闘争」や「松川事件」の勝利など全国的に学生運動や労働運動など高揚の時期でもありました。

そんな時代に「社会の動きと医療・看護とは切り離せないのよ!」「誰のため、何のために看護婦さんになるのか?」「なぜか?どうしてか?」と先輩と夜遅くまで寮生活の中で語り合った事が現在もわたしの原点となっています。

全国の民医連に仲間たちが就職していく中で、わたしは山形の山奥から出てきて、農村医療に興味を持って石垣病院(1971年より宮城厚生協会脱退)に就職し、その後、長町病院(新築移転の時期)→坂総合病院→本部(訪問看護ST・ヘルパーSTの設立準備、支援等々)へと、現場のスタッフと苦楽を共にしながら働き続ける事ができました。

深夜まで

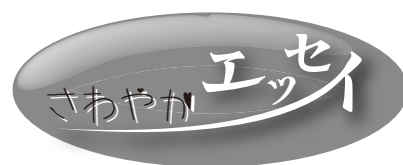
「ノミニケーション」

あの当時のエピソードを紹介しますと「岩沼の田んぼで倒れている人がいる…?」との連絡が入り、院長の指示で血圧計と聴診器一本持ってドキドキしながら走った新米のわたし、研修医と共に職場の事や医療構想について深夜まで「ノミニケーション」しながら語り合った事が思い出されます。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

これまでも決して平坦な道のりではなかったけど、今後も宮城厚生協会には新たな厳しい状況が待ち受けていると思います。そういう困難な時こそ働く仲間たちを信頼し、方針に団結して、共にがんばっていきましょう!

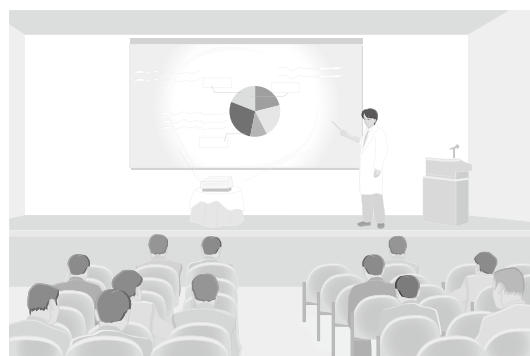




あの頃を 思い出して



長町病院医局 藤 原 大



先日、長町病院院内学術集談会で、ある医学部4年生が演題発表をした。「長町地域での高齢者実態調査」という内容。困難な状況におかれた高齢者の実態をリアルに積み、学生らしい「熱い」素直な思いを述べられていた。ほんとに、素晴らしいかったし、感動をもらった。きっと、他の聴衆の方々も同じだったろう。

僕は、そんな彼が医学部1年生だった頃から知っている。ほんとに「タフ」だ。ボランティアサークルにも所属

して、週1回は障害者の方の家に泊まり込みで介護ボランティア。加えて、1〜2か月に1回は私達と一緒に社会医学の学習会に参加し、時にはフィールドワークにも出かける。それでいて、大学では、試験も難なくこなして優秀そのもの。こんな彼が、医師になつたらどうなっちゃうのかな？

◆ ◆ ◆
そんな彼を見ながら、僕は自分の学生時代を思い出す。僕もあの頃は、寝る間も惜しんで、ほんとに色んなことをやっていたものだ。苦に思うことなんてなかった（気がする）。

野球部に所属して、週3〜4回は早朝から練習「もういっちょー!」。夜には国分町のシヨットバーで深夜までアルバイト「いらっしやいませ」。合間をぬって、自主ゼミ活動として医療を取り巻く情勢を学び、仲間達と「熱い」議論「それは、違うんじゃないかな?」。彼の大きな違いは、試験では毎回「冷や汗もの」であったことか(笑)。そんな僕は、今…。

◆ ◆ ◆
夢に立ち溢れ、「何でも思いつきやっつてやれ!」的な感覚で毎日過ごしていた学生時代。もうあの頃には戻れない。

◆ ◆ ◆
今や、毎日あんな「タフ」であり続けることはできないだろう。けれど、あの頃の「熱い」思いを、心のどこかに持ち続けたい。そうすれば、何か明るい未来が開けるかな？

◆ ◆ ◆
彼のあの眼差しから、僕は感動するとともに、勇気をもらった。ありがとう…。

